

【研究ノート】

ラーニング・コモンズを利用する 理由の探索的検討

永 井 暁 行
佐 藤 淳 哉
米 谷 さくら
中 村 和 彦

研究ノート

ラーニング・コモンズを利用する理由の探索的検討

永井 暁行 佐藤 淳哉 米谷 さくら 中村 和彦
 Akiyuki NAGAI Junya SATO Sakura YONEYA Kazuhiko NAKAMURA

目次

1. はじめに
2. 本研究の目的
3. 対象と方法
4. 結果
5. 考察
6. おわりに

[Abstract]

Research exploring reasons for using the learning commons

This study aimed to clarify students' reasons for utilizing a learning commons. As learning commons have only been introduced in universities in Japan recently, previous studies have not provided a complete discussion of any potentially required improvements. Therefore, this study aimed to provide a helpful perspective on the reasons university students use learning commons. The investigation was conducted through an administration of a voluntary questionnaire to 135 undergraduate students in 2016 and 189 undergraduate students in 2017. The questionnaire comprised multiple-choice responses indicating the reasons for using the learning commons and invited open-ended responses for any other reasons. The results indicated that the reasons for using the facility were divided into the following three categories. First, the rules for using the learning commons are not strict. Second, facility operators offer appointments, for example, to use a personal computer. Third, students can study in the right atmosphere in the learning commons. Based on these results, we discussed which elements are required in a learning commons.

1. はじめに

ラーニング・コモンズは、近年の大学教育において注目されている施設である。加藤・小山(2012)によれば、日本にラーニング・コモンズが紹介されたのは2006年であり、その際にラーニング・コモンズは「ネット世代の学習支援を行う図書館施設もしくはサービス機能」と定義されている。ラーニング・コモンズでは、従来の図書館で行われていたリファレンスサービスよりも広範な支援

が整備され、必ずしも図書館を中心としない学習環境の提供が特徴として議論されている(Turner, Welch, & Reynolds, 2013)。ラーニング・コモンズの多くでは、協同的な学習のためのスペースや議論ができるスペース、飲食可能なカフェ・ラウンジなど多様なエリアが設置されており(McMullen, 2008; 小山, 2012)、コンピュータの利用に関する支援やライティング支援など様々な学習支援が展開されている(Daniels & Barratt, 2008; Massis, 2010)。施設等のハードウェアだけ

キーワード：ラーニング・コモンズ, 大学教育, 学習環境, グループ学習

Key words: Learning Commons, University Learning, Learning Environment, Group Education

でなく、提供されるサービスもラーニング・コモンズの重要な構成要素と言われている(米澤, 2008)。ラーニング・コモンズを設置する大学の数は、本邦においても増加している。ラーニング・コモンズを整備している大学は2011年では全国257大学であったが、2015年では全国482大学であり、その数は約1.88倍となった(文部科学省, 2017)。施設整備が進む中で、その整備形態や名称が多様であることが示されている(小山, 2012)。そのため、以下では設置場所が図書館内か否かに関わらず、上記にあげた学習環境や学習支援サービスといったラーニング・コモンズの機能を備えている施設をラーニング・コモンズとして定義する。

本邦の高等教育において、前述した学習スペースがラーニング・コモンズとして確保される背景には、アクティブ・ラーニングの推進があると言われる(中山, 2016)。ラーニング・コモンズの利用を通して、他者との協働的な学習や主体的な学習の促進が期待されてきた。

このような期待を受けて、ラーニング・コモンズの整備が進められている。ラーニング・コモンズ整備の目的は「学生が学習したいと思う環境づくり」、「学生にとって居心地のよい場所づくり」があげられることが多い(森藤・島田, 2017)。大学内における学生の学びの場の中心としてラーニング・コモンズを展開していくのであれば、制度面も含めた、居心地の良い空間作りが求められる(小山, 2012)。そのために、たとえば会話や飲食を許可するなど従来の図書館に比べてルールの緩和が行われたり(中沢他, 2013)、学生の利用に焦点をあてたサービスやヘルプ・デスクの設置などが行われたりする(呑海・溝上・金子, 2015)。

前述のように、他者との協働や議論による学習のための環境となることがラーニング・コモンズの目標である。そのため、居心地の

良さだけでなく、学びの場となることの必要性も指摘されている(岡部, 2016)。しかし、活発な議論の場として、ラーニング・コモンズはまだ十分に認識されていないこと(松原他, 2017)や、図書館の利用は本・雑誌を借りることと、一人での勉強を目的とすることが多く、(併設されているラーニング・コモンズでは)友達との勉強に関する利用は少ない(小池・新開, 2017)という指摘もある。また、図書館に併設されるラーニング・コモンズでは、ラーニング・コモンズでの会話や議論が条件によって閲覧エリアで騒音となる場合もある(山田他, 2018)。このような現状からは、ラーニング・コモンズに期待される機能の実現は必ずしも容易ではないことが伺える。

一方で、グループ学習の環境として活用されている事例も報告されている。たとえば、協働的な学習活動を支援するエリアは、他のエリアと比較して利用割合が高いという実態(浜島・岡部・鈴木, 2017)や、グループでの施設利用が多いという実態も報告されている(山田, 2016)。大学によっては、ラーニング・コモンズが協働的な学習の場という機能を果たしていることが分かる。

ラーニング・コモンズの整備が進むに従って、上記のように大学内のラーニング・コモンズについて活用の実態などが報告されるようになってきた。それらの先行研究では、ラーニング・コモンズを整備する目的や期待に沿って施設が利用されているかどうかを報告することが主流であった。しかし、施設を整備する目的や期待と、実際に利用する学生の求めている施設の役割は、必ずしも一致しないことが考えられる。たとえば、市村・河村・高橋・楠見(2018)によれば、ラーニング・コモンズという環境で成果が向上するのは単純作業の課題であることが明らかにされている。創造的な学習成果の促進という期待と、単純作業の成果向上という実際の効果にはズ

レが生じている。

これまでの先行研究ではラーニング・コモンズに期待される役割を前提に研究が蓄積されており、その施設を実際に利用する大学生が、なぜ学習の場としてラーニング・コモンズを利用しているのか、何を求めてラーニング・コモンズに来館するのかという学生の実態について十分に検討されていない。本邦で行われてきた物質的・人的な学習環境の整備は、学生にとってラーニング・コモンズを利用する理由と合致しているのか、学生がラーニング・コモンズを利用する理由を検討することによって、ラーニング・コモンズの整備やサービスの運営、改善に役立つ資料を得られるであろう。

2. 本研究の目的

本研究では学生が何を求めてラーニング・コモンズを利用しているのかを明らかにすることを目的とする。そのために、ラーニング・コモンズを利用している学生を対象に、施設を利用する理由を探索的に検討する。施設を利用する理由を調査することにより、学生がラーニング・コモンズを利用する際に重視している点を明らかにする。

3. 対象と方法

(1) 調査対象

本研究の対象としたラーニング・コモンズは2015年10月1日に、大学図書館とは別棟に開設された。講義用の教室棟および大学図書館とは独立した2階建ての建物の、2階部分がラーニング・コモンズとして運営されており、ラーニング・コモンズの面積は682.5m²であった。ラーニング・コモンズ内にはグループ学習を行えるエリアの他、衝立によって区切られたエリアや、プレゼンテーションの練習ができるエリアなど計6種のエ

リアが作られた。当該施設では、全エリアで利用学生の会話が可能であり、軽食と飲み物の飲食が許可されていた。2015年度から2017年度における運営スタッフは、専任事務職員1名、非常勤助手2名、臨時職員2名の計5名であった。

学生がラーニング・コモンズで受けられる学習支援サービスとして、学習に関連する設備・備品の貸し出し、学習セミナー、個別学習支援の3種類が主に行われていた。第1に、希望する学生はラーニング・コモンズの設備・備品を利用できた。それぞれのエリアで利用できる備品として、ノートパソコン、タブレット端末、ヘッドホン、プロジェクター、移動式ホワイトボード、はさみ・のり等文具セットなどの貸し出しが行われていた。また、大型モニター、備え付けホワイトボード、印刷専用パソコン、プリンター、無線LAN、電子黒板が備えてあり、学生は随時それらの設備を使うことができた。第2に、非常勤助手が講師を担当するセミナーが平日に定期的に行われていた。このセミナーではノートの取り方や発表の仕方など、学習活動全般に役立つことを念頭においたテーマが設定されていた。第3に、教員が学生の質問に個別に対応する個別学習支援をラーニング・コモンズで行っていた。個別学習支援は日本語の文章作成に関する支援と、心理学や経済学などで用いられる統計学に関する支援、経済学部などで主に必要とされる数学に関する支援が行われていた。

(2) 調査内容

本研究ではラーニング・コモンズの利用者アンケート用紙を用いて調査した。本研究に関わる調査項目として、「ラーニング・コモンズを利用する理由」への回答を求めた。「学内の他の学習スペースではなく、ラーニング・コモンズで勉強する理由を教えてください」という質問に対して、「1. 話ができる」

「2. ソファがある」, 「3. 軽食がとれる」, 「4. BGMがある」, 「5. 学習をサポートするスタッフがいる」, 「6. 大型ディスプレイが使える」, 「7. ホワイトボードが使える」, 「8. その他 (自由記述)」の複数回答を認める多重選択式および自由記述式で回答を求めた。先行研究から会話ができる, 食事をとることができる, サポートスタッフがいるといった点がラーニング・コモンズの特徴としてあげられているため, これらを参考に選択肢を提示した。その他, 性別, 学年等の回答を求めた。

利用アンケートへの回答依頼および回収は随時行った。調査時期は2016年4月1日から2017年3月31日までに回答されたものを2016年度の回答とし, 2017年4月1日から2018年3月31日までに回答されたものを2017年度の回答とした。その結果, 2016年度の有効回答は135件, 2017年度の有効回答は189件であった。年度ごとに, 回答者の性

別および学年の内訳を表1に示した。

倫理的な配慮としてアンケートは全て無記名で行われ, 匿名性を保つために回収はラーニング・コモンズに設置してある回収箱に調査協力者が自身で投函する方法をとった。ただし, 希望者は運営スタッフに提出することもできた。回答への協力は任意であり, アンケート用紙の配布後, 回収は強制しなかった。

4. 結果

まず, ラーニング・コモンズを利用する理由について集計した (表2)。利用する理由の回答に偏りがあるかを検討するために, 重複する回答も含めた894件の回答を対象に各項目の期待比率をそれぞれ0.125とした上で, 年度合計の回答について χ^2 検定を行った。その結果, 有意な偏りが見られた ($\chi^2(7) = 405.15, p < .01$)。ライアンの方法によ

表1 アンケート調査における性別と学年の内訳

	性別			学年					回答者計
	男性	女性	無回答	1年生	2年生	3年生	4年生	無回答	
2016年度回答者	51	84	0	28	41	24	42	0	135
2017年度回答者	82	105	2	44	46	52	44	3	189

表2 ラーニング・コモンズの利用理由

	2016年度	2017年度	計
1. 話ができる	102 (27.20%)	144 (27.75%)	246 (27.52%)
2. ソファがある	51 (13.60%)	75 (14.45%)	126 (14.09%)
3. 軽食がとれる	93 (24.80%)	129 (24.86%)	222 (24.83%)
4. BGMがある	25 (6.67%)	32 (6.17%)	57 (6.38%)
5. 学習をサポートするスタッフがいる	26 (6.93%)	41 (7.90%)	67 (7.49%)
6. 大型ディスプレイが使える	21 (5.60%)	17 (3.28%)	38 (4.25%)
7. ホワイトボードが使える	23 (6.13%)	26 (5.01%)	49 (5.48%)
8. その他	34 (9.07%)	55 (10.60%)	89 (9.96%)
計	375	519	894
χ^2 値, $df = 7$	405.15**		
多重比較	6.7 < 2.8 < 1.3, 4.5 < 2.		

注1) () 内は各年度および年度合計の回答数に対する割合 (重複回答含む)

注2) ** $p < .01$, ただし多重比較は全て $p < .05$ (多重比較欄の数値は項目番号)

る多重比較の結果、「話ができる」、「軽食がとれる」への回答は「ソファがある」、「その他」への回答よりも多く、「ソファがある」、「その他」への回答は「大型ディスプレイが使える」、「ホワイトボードが使える」への回答よりも多かった。また、「ソファがある」の回答は「BGMがある」、「学習をサポートするスタッフがいる」への回答よりも多かった。

次に、「その他」を選択した回答者の自由記述内容について分析した。その他を選択した回答者は計89名であったが、自由記述は一人の回答者が2件以上の利用する理由を書いている場合もあったため、単一の内容を表すように切片化した。その結果、記述の合計は116件となった。116件の理由を記述内容

に合わせて分類した。

記述内容は以下の手順で分析した。まず、得られた理由それぞれを、類似した記述内容を元にカテゴリーに分類した。その結果、カテゴリー（以下、カテゴリー名は〈〉で表記）は全部で12個得られた。その後、各カテゴリーの内容に類似しているものを集めて、6つの中カテゴリー（以下、カテゴリー名は〔〕で表記）にまとめた。さらに、6つの中カテゴリーを3つの大カテゴリー（以下、カテゴリー名は〔〕で表記）にまとめた（表3）。

1つ目の大カテゴリーは〔人に関すること〕とし、中カテゴリーとして〔利用している学生の存在〕と、〔運営スタッフの態度や支援〕が得られた。〔利用している学生の存在〕は、

表3. 利用理由に関する自由記述結果の分類

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	定義	件数	自由記述例
人に関すること	利用している学生の存在	友達・知り合い	友達や知り合い等の既知の人物が利用していること	4	いつも誰か知り合いがいるので勉強の助けになる
		利用学生の姿勢や様子	友達や知り合い等ではない人物が利用していること	5	周囲の人の積極的に勉強する姿勢に刺激を受ける
	運営スタッフの態度や支援	スタッフの態度	運営スタッフの態度や様子に関すること	2	職員の人が優しい
		スタッフによる支援	運営スタッフによるアドバイスや支援が受けられること	2	サポートデスクの方がとても親切にアドバイスをくださる！
設備・備品に関すること	貸出備品	パソコンの貸出	貸出パソコンを利用できること	31	パソコンを借りられるから、作業しやすい
		その他の備品の貸出	パソコン以外の貸出備品があること	5	貸出物が豊富
	施設の設備	椅子・机などの什器	机や椅子などの什器に関すること	5	大人数で座れるところがあることで
		印刷設備	印刷ができる環境であること	6	すぐに資料を印刷できる
全般的な雰囲気・環境に関すること	物理的な快適さ	環境音	会話・物音などの音に関すること	6	夕方は適度にザワザワしているので、逆に集中できる。
		室温	施設内の気温に関すること	6	室温が良い
	学習環境としての快適さ	清潔さ	施設・設備の清潔さや綺麗さに関すること	7	きれいな内装である
		立地	施設の立地に関すること	1	過ごしやすい環境（生協が近い等）、ラウンジや生協など ¹⁾ とは違って学習の場なので、そういう雰囲気があるところ
居心地の良さ	居心地の良さ	雰囲気などから居心地の良さを感じる	9	落ち着く空間だから	

注1) ラウンジは学生が談話等に使える休憩スペースのことであり、生協は学生食堂を指していると思われる

学生がラーニング・コモンズを利用する上で 1つの要因になっていることが明らかにされた。利用している学生の影響は〈友達・知り合い〉だけでなく、周囲にいる学生の様子などの〈利用学生の姿勢や様子〉からの影響についての記述も見られた。また、ラーニング・コモンズに関わるのは学生だけではなく、運営する教職員スタッフもいる。記述数は少ないものの、中にはラーニング・コモンズの〔運営スタッフの態度や支援〕によって、施設を利用しようと考えていることが示唆された。運営スタッフが学生に普段関わる際の〈スタッフの態度〉や〈スタッフによる支援〉は、施設の利用理由に影響している可能性が示された。

2つ目の大カテゴリーは〔設備・備品に関すること〕とし、中カテゴリーとして〔貸出備品〕と〔施設の設備〕が得られた。〔貸出備品〕は当該ラーニング・コモンズが希望する学生に貸し出していたものであり、特に〈パソコンの貸出〉を利用する理由としてあげる学生が多かった。数名は〈その他の備品の貸出〉に関する内容を記述していたが、その数は多くなかった。貸出という形ではなく、〔施設の設備〕として備えてあり必要に応じて学生が利用できる機能も施設の利用理由にあげられていた。その他、学習活動を行うための〈椅子・机などの什器〉、〈印刷設備〉に関するもの、情報機器を使うための〈通信設備〉に関するものがあげられた。

3つ目の大カテゴリーは〔全般的な雰囲気・環境に関すること〕とし、中カテゴリーとして〔物理的な快適さ〕、〔学習環境としての快適さ〕が得られた。〔物理的な快適さ〕には、静かすぎずうるさすぎないといった〈環境音〉に関するものや、〈室温〉、〈清潔さ〉に関するものがそれぞれあげられた。室内の条件だけでなく、〈立地〉についての記述も 1件見られた。また、〔学習環境としての快適さ〕についての記述も見られた。勉強したくなる

雰囲気がある、勉強する環境が整っているといた〈学習環境〉や、〈集中しやすさ〉などの学習活動を促す環境に関する記述が得られた。加えて、全般的な〔居心地の良さ〕といた居場所としての機能も得られた。このように様々な側面の快適さ・利用のしやすさが、ラーニング・コモンズの利用を促している可能性が示唆された。

5. 考察

本研究はラーニング・コモンズを利用した際のアンケート調査から、実際に施設を利用している学生のラーニング・コモンズを利用する理由についての知見を得ることを目的とした。その結果、「話ができる」、「ソファがある」、「軽食がとれる」という 3点が利用する理由として比較的選ばれやすいことが明らかになった。「その他」を選ぶ学生も多く、「その他」に関する代表的な記述として〔貸出備品〕などの〔設備・備品に関すること〕や、〔学習環境としての快適さ〕などの〔全般的な雰囲気・環境に関すること〕があげられた。また、比較的少数であるが、〔利用している学生の存在〕などの〔人に関すること〕があげられた。多くのラーニング・コモンズにおいて、会話や飲食の許可というルールの緩和や多様な学習スタイルの許容が行われている(中沢他, 2013)。ルールが緩和され多様な学習スタイルを受容する空間の整備は、学生がラーニング・コモンズを利用する理由に繋がっていることが本研究から示された。

コンピュータの利用とグループ学習のできる場が、ラーニング・コモンズにおける基軸となっている(小山, 2012)と言われる。前者であるコンピュータをはじめとする様々な機器を活用できる点は、本研究でも施設を利用する理由として見られた。項目からは大型ディスプレイ、ホワイトボードが使えるということが合計で約 9%選ばれており、自由

記述からも〔貸出備品〕があることや〔施設の設備〕に関することがあげられている。多くのラーニング・コモンズで、学生の利用できるパソコンが用意されており、プロジェクターや無線LANの環境が整っている（小山, 2012）。ラーニング・コモンズが発展してきた背景（加藤・小山, 2012）からも、これらの設備や備品を学生が自由に使えることは、学習環境としてラーニング・コモンズが利用されるための重要な要因となっている。

ラーニング・コモンズにおける基軸の2点目に関する利用理由も、本研究から得られた。ラーニング・コモンズでは他者と共に学ぶというスタイルを支援する場として期待されている（岡部, 2016）。本研究においても、「話ができる」、「ソファがある」といったグループでの会話や議論を伴う学習活動ができる空間であることが理由として選択される傾向にあった。

また、協働的な学びの場として使われることで物音や会話が音が生じる。BGMがあることが選択されていることや〔全般的な雰囲気・環境に関すること〕の中で〈環境音〉に関する記述があったことから、適度な音がある環境を求めている学生の姿が明らかになった。市村他（2018）は私語が制限されていないラーニング・コモンズの適度な騒音によって、単純な作業量も向上するという可能性を示しており、利用学生やBGMなどの適度な音があるラーニング・コモンズは、協働的な学習だけでなく個人での学習活動を行う場としても活用できる。

ラーニング・コモンズとして施設を運営していくためには、設備やパソコンの貸出などによる情報機器の利用だけでなく、学習支援サービスの整備が必要とされる（Massis, 2010）。学習をサポートするスタッフがいることは利用する理由として約7%選ばれており、自由記述からも少数ながら〔運営スタッフの態度や支援〕に関する記述が得ら

れている。Daniels & Barratt（2008）においても、ラーニング・コモンズにおけるレファレンスデスクには高度で多様なスキルが重要であり、その訓練への投資が課題とされる。ラーニング・コモンズは大学におけるコミュニティを形成する場としての可能性も期待されており、その理由として図書館員という人的資源が常に存在することがあげられている（米澤, 2008）。本研究からはラーニング・コモンズを運営するスタッフの存在が学生の利用する理由に繋がっていることが示された。ラーニング・コモンズにおいて、学生の支援を十分にできる体制を整えていくことは、利用する学生の学習環境を維持するために重要な役割を担う。いかに人的資源を維持し、向上させていくかが今後も課題となる。

大学内における学生の学びの場の中心としてラーニング・コモンズを展開するために、居心地の良い空間作りが求められている（小山, 2012）ように、ラーニング・コモンズを居心地の良い学習空間として整備していくことは学生の利用理由に直結すると考えられる。本研究で得られた自由記述の中でも〔居心地の良さ〕が利用する理由としてあげられている。ただし、居心地が良いだけでなく、協働の学びの場としてラーニング・コモンズが必要とされ（森藤・島田, 2017）、入館者を学習に結びつけることがラーニング・コモンズの存在目的である（中山, 2016）。そのため、〔居心地の良さ〕だけでなく、利用理由にも記述された〔学習環境としての快適さ〕を維持することがラーニング・コモンズの運営に重要であろう。これらの利用理由にはその他の〔運営スタッフの態度や支援〕や、〔貸出備品〕・〔施設の設備〕が利用しやすいものであること、〔物理的な快適さ〕などの理由が背景になっている可能性がある。特に、〔利用している学生の存在〕がラーニング・コモンズを利用する理由の一つとしてあげられており、他の学生との相互作用により学習活動

が促進される場となっている可能性も示された。

しかし、これらの可能性について、本研究では検討するための資料を十分に得ることができていない。本研究で得られた利用理由のそれぞれが、単独でラーニング・コモنزの利用を促しているとは考えにくい。本研究で得られた利用理由の項目選択率と自由記述を元に、今後は各利用理由が居心地の良さ、学習のしやすさ、利用する意欲などに対していかに影響を及ぼしているのかを定量的な研究によって検討していく必要がある。

6. おわりに

本研究はラーニング・コモنزの利用実態についての知見を得るため、ラーニング・コモنزの利用学生に対するアンケートからラーニング・コモنزを利用する理由について検討した。その結果、ラーニング・コモنزを利用する理由は多岐に渡っているが、利用のルールに関すること、貸出備品や設備に関すること、施設内の雰囲気に関することなどが多く示された。

本研究の限界と今後の展望として、以下の2点があげられる。まず、第1の限界として、ラーニング・コモنزの利用実態を捉えるために、一施設の利用者アンケートに頼っている点があげられる。ラーニング・コモنزの整備や運営は、各大学における施設などの影響を大きく受ける(小山, 2012)と言われる。そのため、本研究の結果を全てのラーニング・コモنزにそのまま一般化することには慎重になるべきであろう。今後は本研究で得られた施設を利用する理由を活用し、複数のラーニング・コモنزを対象とした定量的な調査が必要である。

第2の限界として、調査協力者のサンプリングの問題があげられる。本研究はラーニング・コモنزの利用者に対するアンケートか

ら結果を得た。そのため、回答者には利用頻度の高い学生や、施設の利用に積極的な学生が多く含まれたと思われる。ラーニング・コモنزの研究には全学的な取り組みが必要とされる(浜島・岡部・鈴木, 2017)。施設を利用する理由や、学生の選択する学習環境について、より広く様々な学生に対して情報を得ることで、現代の大学生の自主的な学習を促す環境についての議論が深まっていく。

本研究は様々な理由によってラーニング・コモنزが利用されていることを探索的に明らかにした。今後は各利用学生の具体的な利用方法について検討することや、学生が利用しやすいラーニング・コモنزの雰囲気がいかに形成されていくのかを検討していくことが期待される。

〔謝辞〕

本論文の一部データは日本心理学会第82回大会で発表されたものです。本論文の執筆にあたり、来館者数の集計データおよびアンケート結果を提供して下さった北星学園大学学習サポートデスクの皆様にご心より感謝申し上げます。また、利用アンケートへ回答して下さった学生の皆様に厚くお礼申し上げます。

〔文献〕

- Daniels, T. & Barratt, C. C. (2008). What is common about learning commons? A look at the reference desk in this changing environment. In Steiner, S. K. & Madden, M. L. (Eds.), *The desk and beyond: next generation reference services* (pp.1-13). Chicago: ACRL.
- 吞海沙織・溝上智恵子・金子美弥 (2015). 日本の高等教育機関図書館におけるラーニング・コモンズの現状. 溝上智恵子(編著)世界のラーニング・コモンズ—大学教育と「学び」の空間モデル. 樹村房, pp.247-261.
- 浜島幸司・岡部晋典・鈴木夕佳 (2017). ラーニング・コモンズ内のエリア別利用傾向と学習成果—同志社大学良心館LC利用アンケート調査から—. 同志社大学学習支援・教育開発センター年報, 8, 3-19.
- 市村賢士郎・河村悠太・高橋雄介・楠見 孝 (2018). ラーニングコモンズの環境要因と創造性課題の成績との関連. 日本教育工学会論文誌, 42, 55-64.
- 加藤信哉・小山憲司 (2012). ラーニング・コモンズ文献案内: 翻訳論文のまえがきに代えて. 加藤信哉・小山憲司(編著)ラーニング・コモンズ—大学図書館の新しいかたち—. 勁草書房, pp.1-24.
- 小池孝子・新開よしみ (2017). 東京家政学院大学附属大江記念図書館ラーニングコモンズの利用状況について. 東京家政学院大学紀要, 57, 67-72.
- 小山憲司(2012). 国内の大学図書館におけるラーニング・コモンズの現状. 加藤信哉・小山憲司(編著)ラーニング・コモンズ—大学図書館の新しいかたち—. 勁草書房, pp.203-269.
- Massis, B.E. (2010). The academic library becomes the academic learning commons. *New Library World*, 111, 161-163.
- 松原 悠・斎藤未夏・石津朋之・大山貴稔・佐藤まみ子・新村麻実・野村港二 (2017). 筑波大学中央図書館ラーニング・コモンズにおける大学院共通科目「ザ・プレゼンテーション」の実施. 大学図書館研究, 107, 1-11.
- McMullen, S. (2008). US academic libraries: Today's learning commons model. *P E B Exchange, Programme on Educational Building*, 2008/04, 1-7.
- 文部科学省 (2017). 平成27年度の大学における教育内容等の改革状況について (概要)
- 森藤ちひろ・島田奈美 (2017). アクティブ・ラーニングにおける大学図書館の役割—ラーニング・コモンズにおける教職員協働の重要性—. 流通科学大学論集—流通・経営編—, 30, 133-157.
- 中山貴弘 (2016). 学習支援の拠点としてのラーニング・コモンズ—その日米比較と今後の展望—. 大学教育研究 (神戸大学), 24, 117-129.
- 中沢正江・児玉英明・池田恵子・小倉都子・篠崎大司・今井美裕子・藤原めぐみ (2013). 主体的に周囲から学び, 学び続ける活力を得られる学習場「ラーニングコモンズ」の構築に向けたヒアリング調査報告. 高等教育フォーラム (京都産業大学), 3, 65-80.
- 岡部晋典 (2016). 図書館的な〈場〉で共に学ぶということ—ラーニング・コモンズという潮流—. 薬学図書館, 61, 73-78.
- Turner A, Welch B, & Reynolds S. (2013). Learning Spaces in Academic Libraries—A Review of the Evolving Trends. *Australian Academic & Research Libraries*, 44, 226-234.
- 山田かおり (2016). ラーニングコモンズ設置前後の大学図書館の利用実態—嘉悦大学における事例調査—. 嘉悦大学研究論集, 59, 101-116.
- 山田覚・池田謙一・梅井美和・岡奈津紀・荻礼子・西岡輝幸・西岡ゆりや・西本絵美・吉本悠子・渡邊桂子 (2018). 図書館のラーニングコモンズの活用と騒音課題. 高知県立大学紀要, 67, 1-12.
- 米澤誠. (2008). ラーニング・コモンズの本質: ICT時代における情報リテラシー／オープン教育を実現する基盤施設としての図書館. 名古屋大学附属図書館研究年報, 7, 35-45.